



平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月4日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社マーベラス
コード番号 7844 URL <http://www.marv.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役会長 CEO (氏名) 中山 晴喜
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 CFO 管理統括本部長 (氏名) 加藤 征一郎 TEL 03-5769-7447
四半期報告書提出予定日 平成27年2月6日
配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	18,208	24.2	2,925	35.4	3,112	39.5	1,875	34.7
26年3月期第3四半期	14,666	20.8	2,160	25.9	2,231	33.4	1,392	0.5

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 1,902百万円 (35.1%) 26年3月期第3四半期 1,408百万円 (1.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	35.08	35.08
26年3月期第3四半期	26.05	—

平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	20,079	13,141	65.4	245.76
26年3月期	16,816	11,921	70.9	223.02

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 13,141百万円 26年3月期 11,921百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	13.00	13.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期（予想）	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	23.0	3,800	26.4	3,790	24.6	2,274	20.8	42.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期3Q	53,593,100株	26年3月期	53,593,100株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	122,400株	26年3月期	138,000株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期3Q	53,466,772株	26年3月期3Q	53,455,100株

平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	5
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結貸借対照表関係)	6
(四半期連結損益計算書関係)	6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)	7
(株主資本等関係)	7
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるエンターテインメント業界は、スマートフォンの普及に伴うアプリゲーム市場が引き続き拡大成長し、多種多様なタイトルとともにユーザー数も増加しております。また、ブラウザゲームにつきましても、スマートフォン端末でプレイする形態に移行しながら、底堅い人気を維持しております。家庭用ゲーム市場におきましては、性能に優れたゲーム専用機がコアユーザーを中心に根強い人気があるものの、その市場規模はスマートフォン市場に逆転を許し、クラウドといった技術革新もある中で、依然として厳しい状況にあります。アーケードゲーム市場につきましても、キッズ向けの様々なゲームの登場で競争が激化する中、一部の強力なコンテンツにより寡占状態となっております。音楽・映像分野におきましては、インターネットメディアの普及と回線の高速化や配信サービスの充実等から、パッケージ商品のセールスが思わしくない環境下にある一方で、ライブエンターテインメントビジネスの需要の高まりに期待が寄せられております。

このような状況下、当社グループは、多彩なエンターテインメントコンテンツをあらゆる事業領域において様々なデバイス向けに展開する「マルチコンテンツ・マルチユース・マルチデバイス」戦略を基軸とした総合エンターテインメント企業として、強力なIPの確立に向けたブランディング戦略・アライアンス戦略・グローバル戦略を積極的に推進し、話題性の高いコンテンツの提供とサービスの強化に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）の業績は、売上高18,208百万円（前年同期比24.2%増）、営業利益2,925百万円（前年同期比35.4%増）、経常利益3,112百万円（前年同期比39.5%増）、四半期純利益1,875百万円（前年同期比34.7%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

①オンライン事業

当事業のPCブラウザゲームにおきましては、平成26年11月4日に「三国志PHX（サンゴクシフェニックス）」を新規リリースしたほか、ロングヒットタイトル「ブラウザ三国志」を中心に既存タイトルも堅調に推移いたしました。また、モバイルブラウザゲームにおきましては、サービス開始から2年半が経過した「一騎当千バーストファイト」が再び売上上昇となるなど、こちらも既存タイトルが堅調に推移いたしました。ネイティブアプリに関しましては、平成25年12月にリリースいたしました「剣と魔法のログレス いにしへの女神」が好調を継続しており、売上をさらに拡大しながら当期の収益に大きく貢献いたしました。同タイトルはTVCMも奏功し、累計ダウンロード数も500万件を突破いたしました。この他、アプリゲームの新規タイトルといたしましては、平成26年11月25日に「NBA CLUTCH TIME」、同12月11日に「集めて！とらんぶ娘れくしょん」の正式サービスを開始いたしました。なお、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社とのライセンス契約に基づき平成26年12月15日に当社がサービスを開始した、「ディズニー マジックキャッスル ドリーム・アイランド」につきましては、配信開始時よりサーバーのキャパシティを超える多数のお客様のアクセスをいただいた結果、同12月19日にサービスを一時中断し、現在、再開に向けての改修作業にあっております。

この結果、当事業の売上高は10,561百万円（前年同期比68.5%増）、営業利益は2,411百万円（前年同期比490.7%増）となりました。

②コンシューマ事業

当事業の自社販売部門につきましては、ダウンロード専用で販売していた「デカ盛り閃乱カグラ（PS Vita）」のパッケージ版を平成26年11月27日に発売いたしました。

アミューズメント部門につきましては、平成26年6月26日よりサービスを開始した、キッズアミューズメント筐体「バズドラZタイマーバトル」は競争激化の中、引き続き軟調な推移となりました。同様に、「ポケモントレタ」につきましても、底堅い推移は見せているものの、計画を下回る結果となりました。

この結果、売上高は4,492百万円（前年同期比17.2%減）、営業利益は497百万円（前年同期比72.5%減）となりました。

③音楽映像事業

当事業の音楽映像制作部門におきましては、当社主幹事TVアニメ作品「幕末Rock」、「東京喰種トーキョーグール」の音楽・映像商品化を行いました。

ステージ制作部門におきましては、平成26年10月に「舞台『弱虫ペダル』箱根学園篇～野獣覚醒～」、同11月に「ミュージカル『テニスの王子様』コンサートDream Live 2014」、さらには同12月に「超歌劇『幕末Rock』」の公演を行い、チケット販売に加えて、関連グッズやDVDの販売も非常に好調で、いずれも大好評の興行となりました。

この結果、売上高は3,166百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益は737百万円（前年同期比15.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当社グループの当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、資産20,079百万円（前連結会計年度末比3,262百万円増）、負債6,938百万円（前連結会計年度末比2,043百万円増）、純資産13,141百万円（前連結会計年度末比1,219百万円増）となりました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、受取手形及び売掛金ならびにたな卸資産の増加等により17,160百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,576百万円増加いたしました。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、有形固定資産の増加等により2,919百万円となり、前連結会計年度末に比べ686百万円増加いたしました。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、借入金の減少、未払金の増加等により6,881百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,040百万円増加いたしました。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、長期借入金の減少、資産除去債務の増加等により57百万円となり、前連結会計年度末に比べ2百万円増加いたしました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益の累積が前連結会計年度の配当による剰余金の減少を上回った結果、13,141百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,219百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月9日発表の業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,020	8,755
受取手形及び売掛金	3,505	5,236
電子記録債権	59	20
有価証券	72	—
たな卸資産	1,472	1,987
その他	471	1,182
貸倒引当金	△18	△22
流動資産合計	14,583	17,160
固定資産		
有形固定資産	533	827
無形固定資産		
のれん	137	111
その他	1,020	1,225
無形固定資産合計	1,157	1,336
投資その他の資産	661	767
貸倒引当金	△120	△12
固定資産合計	2,233	2,919
資産合計	16,816	20,079
負債の部		
流動負債		
買掛金	757	598
短期借入金	585	380
1年内返済予定の長期借入金	23	15
未払金	1,426	3,218
未払印税	911	1,105
未払法人税等	705	457
引当金	28	—
その他	401	1,106
流動負債合計	4,840	6,881
固定負債		
長期借入金	40	29
資産除去債務	14	26
その他	—	1
固定負債合計	54	57
負債合計	4,895	6,938
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128	1,128
資本剰余金	6,373	6,382
利益剰余金	4,440	5,621
自己株式	△27	△24
株主資本合計	11,914	13,107
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	0	—
為替換算調整勘定	6	33
その他の包括利益累計額合計	6	33
純資産合計	11,921	13,141
負債純資産合計	16,816	20,079

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	14,666	18,208
売上原価	7,410	7,802
売上総利益	7,256	10,406
販売費及び一般管理費	5,095	7,480
営業利益	2,160	2,925
営業外収益		
受取利息	1	1
為替差益	74	182
受取賃貸料	—	5
その他	4	3
営業外収益合計	80	193
営業外費用		
支払利息	6	5
貸倒引当金繰入額	1	0
その他	0	0
営業外費用合計	9	6
経常利益	2,231	3,112
特別利益		
投資有価証券売却益	※1 37	—
特別利益合計	37	—
特別損失		
固定資産売却損	0	—
投資有価証券評価損	—	10
減損損失	※2 49	—
和解金	※3 49	—
特別損失合計	99	10
税金等調整前四半期純利益	2,169	3,102
法人税等	777	1,226
少数株主損益調整前四半期純利益	1,392	1,875
少数株主利益	—	—
四半期純利益	1,392	1,875
少数株主利益	—	—
少数株主損益調整前四半期純利益	1,392	1,875
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△0
為替換算調整勘定	13	27
持分法適用会社に対する持分相当額	3	—
その他の包括利益合計	16	27
四半期包括利益	1,408	1,902
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,408	1,902
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

連結会社以外の会社の金融機関からの借入等に対し、重疊的債務引受を行っております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
株式会社アニメーションスタジオ・アートランド	19百万円	16百万円

(四半期連結損益計算書関係)

※1 投資有価証券売却益の内容は次のとおりであります。

当社が保有するその他有価証券の一部を平成25年9月に売却したことによるものであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
株式会社マイクロキャビン株式	37百万円	－百万円

※2 減損損失の内容は次のとおりであります。

当社グループは、以下の資産について減損損失を計上いたしました。

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

①減損損失を認識した資産

用途	種類	場所	減損損失
－	のれん	－	49百万円

②減損損失の認識に至った経緯

当社の連結子会社であるMarvelous USA, Inc. が前連結会計年度に事業譲受により取得したIndex Digital Media, Inc. のオンラインゲーム事業において、当初想定していた収益を見込めなくなったことから減損損失を認識し、当該のれんの帳簿価額を全額減損損失としております。

※3 和解金の内容は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

Checkpoint Studios Inc. との間で生じていた係争に関して和解が成立したことから、同社に支払った和解金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	869百万円	764百万円
のれんの償却額	34百万円	26百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

配当金支払額

平成25年5月10日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	668百万円
② 1株当たり配当額	1,250円00銭
③ 基準日	平成25年3月31日
④ 効力発生日	平成25年6月7日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間（自平成26年4月1日 至平成26年12月31日）

配当金支払額

平成26年5月9日の取締役会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

① 配当金の総額	694百万円
② 1株当たり配当額	13円00銭
③ 基準日	平成26年3月31日
④ 効力発生日	平成26年6月9日
⑤ 配当の原資	利益剰余金

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額には当該株式分割後の実際の配当額を記載しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	6,267	5,424	2,973	14,666	—	14,666
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	0	0	△0	—
計	6,267	5,424	2,974	14,666	△0	14,666
セグメント利益	408	1,812	639	2,859	△699	2,160

(注) 1 セグメント利益の調整額△699百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社の連結子会社であるMarvelous USA, Inc. が前連結会計年度にIndex Digital Media, Inc. のオンラインゲーム事業を取得したことにより発生した「オンライン事業」に係るのれんについて、49百万円の減損損失を計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「オンライン事業」において、上記「固定資産に係る重要な減損損失」に記載した減損損失の計上により、のれんが49百万円減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益及び包括利 益計算書計上 額(注) 2
	オンライン 事業	コンシューマ 事業	音楽映像事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,561	4,492	3,155	18,208	—	18,208
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	11	11	△11	—
計	10,561	4,492	3,166	18,220	△11	18,208
セグメント利益	2,411	497	737	3,646	△721	2,925

(注) 1 セグメント利益の調整額△721百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	26円5銭	35円8銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	1,392	1,875
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,392	1,875
普通株式の期中平均株式数(株)	53,455,100	53,466,772
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	—	35円8銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(百万円)	—	—
普通株式増加数(株)	—	897
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 1 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式がないため、記載しておりません。

2 平成25年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。